

みずつき

「水」がテーマのアンソロジー

2022年初夏 「水」がテーマのアンソロジー みずつき 11

発行：2022.06.06 | 短歌：ご寄稿くださった皆様 | 企画・編集・装丁：千原こはぎ

mizutSuki
2022

11

みずつき

「水」がテーマのアンソロジー

11
mizutsuki
2022

ご参加
いただいた
みなさん (五十音順)

青時 あおとき	@madobenounibe	五十子尚夏 いそしほなな	@toco to cotouko	古都 梨衣子 ここのしほ	@_yu_ca_li_
青藤木葉 あおふゆきは	@konoha_ao	植田こうこ うえだこうこ	@Shinsyutu2020	今 哀子 いまのさきこ	@3156AIKO
浅葱ねお あさぎねお	@book_aioimsyoku	宇祖田都子 うそでたつとこ	@spice16g	西藤智 さいとうち	@hitonosulab
あなぐま	@matobarium	泳二 えいじ	@Ejshimada	酒庭かや さかまたかや	@inojinoinoji
天野うずめ あまのうずめ	@uzume_no_hijiri	大橋春人 おほはしはるひ	@hachidx2	咲兵衛 さきへい	@izumitakeishi
雨虎俊寛 あめとらしゅんかん	@amefurashi3107	岡田奈紀佐 おかたなきさ	@naokiakutagawa	佐藤氷魚 さとうひょうぎ	@satohio_tanka
新棚のい あたらな	@HCCMONO	久助 きゅうすけ	@kareido1111	西 鏡 さいのかがみ	@xi_zhen_ivUT
有村桔梗 ありむらぎきりょう	@chattenoire_k	桐野黎 きりや	@kate_kawagishi	雀来豆 すずけまめ	@jacksbeans2
		玖嶋こへい くしまこへい	@kmmr_r09	姿煮 すね	@sugartani
		黒須紗里菜 くろすさるいな	@nTbBm64sh1ap	せいや	@petitchante
		小泉キオ こいずみキオ	@Tower11710	たえなかつす	@suzusuzuz2009
		紅坂紫 べんぱし	@sacula_tanka	多香子 たかこ	@v8QdMu8WOf9vbi
			@tk0326	高田月光 たかたけいけい	@8QdMu8WOf9vbi
			@@kiokoizumitanka	高橋良 たかはしりょう	@takahashi_ry5
			@YukariKousaka	瀧口美和 たきぐちみわ	@@abcdefghijklmiv
				滝藤青瀬 たきふしあせ	@genso_ase

楽園に死に水はない

楽園に死に水はない年齢を重ねぬひとの生まれを祝う
水要らぬ花と己を称すひとその歌声に潤うところ
緑にも黒にも見える水色を青と言うひと選べる自由
降り止まぬ雨の女を演じきるひとの結びの眩しい声
どの国の水もおそらく合うひとがこがよいよと言いつける夜更け
気がつけば芽伸ばし育つひとがいて水の代わりに送る声援

ルオ @ruo129

Regenwelt

赤信号雨粒がうつ窓に手をあてて感じる小いんばるす
むだに広い駐車場の端のほうとに残されたみたいにとまる
うすいまくみずのなかではうすいまくちよくせつふれたきがしないから
傘なんてささずに行こうよあすこまで衝撃だけを共有している
落ちていくみずたまりのなかこの町が崩れるまえに飛び越えておく
間接の世界が終わる。雨の音、ぶった切られる 扉が閉まる

渡邊知博

みずつき

「水」がテーマのアンソロジー

11
mizutsuki
2022

生命のみず

治療より終わりが欲しいけど今は選択肢のない車内で眠る
蟻の歩く速さで震えは広がって 世界と僕の波間に消えた
「理解」という標語を掲げた大部屋で有効に使う手指消毒
チェイサーを流す角度で額いて退院までの流れを聞いた
飲まないと存在が普通以下だから飲めば普通になれる気がした
だとしてもあと一日を積んでいく生命の水を断った身体で

もんそん @monsontanka

笑っちゃうなう

うなばらを撫ぜたくえを追うようにとつくに沈んだわたしの舟の
詩をすべて忘れるみたいに妹はウィルキンソンを飲むようになった
その絵にはうその海岸うそのイルカほぼえんでいた みんなご無事で
汀でもかわらず白いシャツを着て君はわたしを問題と呼ぶ
夕暮れに蚊の産まれくる水さやかわざと失くしたサンダルのこと
死なないさん 波やべーってそんなんで笑っちゃうなら生きてましようよ

湯島はじめ @hajime_yu11

二階席の守護天使

それはまるであなたか僕のどちらかがこの世を終えるような曇天
三叉路をなるべく右へ行きながら夜の水辺を目指さなくては
海抜の標示があつて訥々とあなたが海の詩を誦んじる
老人と海と天国の三すくみはわざわざ図解するほどだった？
僕は電車をあなたはバスを調べつつ座れる場所を椅子と見做した
それぞれの朝、それぞれの朝マック すべての二階席の守護天使

夜夜中さりとて @yorusari

ひとり、銭湯

サウナのある銭湯へゆく都合よく逃げられさうなことは探しに
洗ひ場のとまりビオレの匂ひして暮らしの幅も共有してゐる
湯けむりに溶かささみしさ学生は学生のための話でわらふ
きみがゐて後輩もゐて何もかも道連れにするくらゐの熱波
やや早いプール開きの絶叫を思ひだしつつ水風呂呂を出る
もう誰も付いてくると言ひたげな口をオロポで塞いで帰る

うめ @llama_miyashita

田中翠香	@sukakhenbi	古井久茂	@tuldom	湯島はじめ	@hajime_yu11
田村穂隆	@Da_Ho_Ra	古川柊	@fukukawasyuu	夜夜中さりとて	@yorusari
千原こはき	@kohagi_tw	穂崎円	@golden_wheat	うめ	@llama_miyashita
堂那灼風	@shakufur	本条恵	@singles_cafe	ルオ	@ruo129
長井めも	@longmemo_tanka	牧角うろ	@mkdoki	渡邊知博	
中村育	@nkmrik	真崎あや	@ayayamk		
中村成志	@nakam8	丸瀬まる	@maruse__maru		
榎原もか	@kharaneko	丸山恵子	@ig9v1L8lWMeaqfS		
成瀬悠	@naruse00yuuu	御糸ちち	@MEATsachi		
奈瑠太	@nalda_aa	深影コトハ	@cotoha_mikage		
西淳子	@jacky244Ray	水沢穂波	@3hohenheim		
ネコノカナエ	@nekonokanae_uta	水也	@m_iya_o		
林見 年	@poyashimi	宮嶋いつく	@miyazima_izq		
早月くう	@k_hayatsuki	睦月 雪花	@mu_tsu_ki_s		
飛和	@hiwa_towa	村田一広	@mucci2022		
福山桃歌	@momoka_fukuyama	もんそん	@monsontanka		

計77名

たくさんのお参加
ありがとうございます！

みずつき

「水」がテーマのアンソロジー

11
mizutsuki
2022

77名による462首の
「水」がテーマのアンソロジー

まどろみ鉄道

まどろみに佇むホーム見渡せばここも一つの舟かと思う
宵空を溜めた水槽とつぷりと車窓は揺れて星積もる夜へ
東雲に列車はうつらうつら往くかもめひとりではないのかも
水鏡列車が往けばきらきらと光の波は久遠へわたる
あかねさす朝日たつぷり浴びたなら星を抱いて生まれ変わる
まどろみに降り立つホーム気がつけばここも家だと思う「ただいま」

青時 @madobenounibe

藹々蓮花

かなしみはいつか蝶へと成るでしょう今は嘆きと花を返して
水面にてうつる青色空の色手を伸ばしてはとぷり落ちてく
穏やかにもうおだやかに眠ってね祈りなんてさ裏返り見る
ほとりには甘き乙女の微笑みと残る白百合崩れて散華
月のない夜に瞬く星屑のひとつかけただけ触れてみたいの
彼方へと伸ばす指先あたたかく思えるときはくるのでしょうか

水也 @m_lya_o

ねえウンディーネ 3

七色の水を混ぜればどす黒くよんどんてしまう顛し世の夢
ウンディーネもドライアードもない森ひかりまばゆいヴァーチャルの森
鉄の雨 鉄屑の町 地を濡らす血潮にウンディーネは宿らない
かさかさの感情の襲うるおいを与える露がはじけ転がる
涙など忘れたよねえウンディーネ人はここまで乾いてしまう
四十日四十夜降り注ぐ雨に砂に描いた世界は消えた

宮嶋 いつく @mizazima_izq

雨、まだ音のない日々

傷跡が軋んで遠い葉が落ちるやけに今日は雨が馴れ馴れしい
待つことに慣れて五月雨静まり返る雑踏をあなたは
紫陽花よ わたしの全てを集めても足りないみたい、会いたいよ
終わるくらいなら始まらないで 濡れた羽が降り積もってゆくのを
傘の中の低い声おじいさんになってもあなたは音楽をする
からっぽな体に木霊する雨音がやがて鼓動になるまでのこと

青藤 木葉 @konoha__ao

涙ごと降ってくる水無月

手のひらに掴める風があれば雨 わかるといふ感覚があつて
雨 どうしようもなく濡れたくなった 傷つけることが今は欲しい
この雨も月が冷やしてるのだろう 涙ごと降ってくる水無月
寂しさが込み上げるたびあなたに溢れる湖がここにあるの
瞳から零れまいと膨らむ粒 生まれた海は揺れて燦く
これからも比喩になる前の涙は私のために光るのだろう

浅葱 ねお @book_aimusyoku

夏が泳ぎ出す

真夏日へ近づくまでの予告編としてぼくらを焦らす梅雨空
ちよっとだけ今日を楽しく過ごすためのろはす(桃)を買う屋下がり
晴天が知らない花の顔があり雨はつぼみを優しくあやす
いつもより熱めのシャワー 悔しさの温度を超えるものを教えて
たん、さん、すい、すい、のところでもう夏がちよっと泳ぎ出しちゃってるじゃん
「ここからが海」だと言えば海になる幼子たちのまばゆい世界

睦月 雪花 @mu_tsu_ki-s

霧を抜けて来ただけなのに

雨宿りの喫茶は居心地がよくていつの間にやらパフェケーキプリン
軒先の時間はとまり雨まみれの外界が慌ただしく過ぎる
水かお湯出来ればお湯の方がいい石鹸がいそいそと溶けてゆく
霧を抜けて来ただけなのに全身がびつしり濡れて立つ君の前
水たまりを踏んだら傷つけてしまひ飛び散った透明が戻らない
どこに隠れてゐたの？ 夕立のあとの夕空に舞ふ蝶の鱗粉

村田 一広 @mucci2022

青にする

尾道はしみず食堂のラーメンの器の中も海、しょっぱくて
もし草原あるいは大海原にいて見る夢はたぶん君との初恋
雨匂う油絵具は混じり合う薄むらさきのみゆき画材店
しろがねの針はやさしい波縫いの湖面の皮膜を刺し継ぎながら
眼球は凸であるので滲み出す涙は凹のグラスに落とす
体液は弱アルカリ性 涙してグラスに満ちるもの青にする

丸山 恵子 @ig9v1L8lWMEaqt5

紅茶との距離

24時間いつ飲んだってかわらない午後の紅茶を見たことはある
リプトンのバックにストロー差して飲む女子高生を見たことはある
父親が母親のため買い溜めた紅茶花伝を見たことはある
ルビシアに並んだ丸いサンブルの余程な数を見たことはある
花が咲きゆめが広がるマガジンで紅茶王子を見たことはある
一度だけ口含んで吹き出した 麦茶のつもりだった紅茶を

御系 さち @MEATSachi

呼吸

水槽で生まれたきみが笑うたび揺れる尾ひれのみずうみのいろ
雨雲を率いて駆けてくる神にとびきり甘い缶コーヒーを
乗り越して海へいこうよ急行はクレーマーより速く走れる
息継ぎを忘れずにゆけペランダの飛び込み台に跳ねる雨音
聴こえない声でこたえよ砂浜に波がしずかにしみとおるとき
雨上がりひとりになった三毛猫が木の腰掛けで空を見ている

あなぐま @matobarium

ドリームウォーター

ストレスは水溶性と知りてのち手洗いをする時間が伸びる
シャワーって選択肢すら挙がらずに見ているだけの検証動画
湖のボートに花を敷き詰めて僕の死体に乗っている夢
創英角ポップ体にて「水道局たより七月号」は書かれる
締め出した世界とふいにつながってぬるくても飲むボカリスウェット
寒くても暑くてもいい梅雨空の下で誰かに水を求める

天野 うずめ @uzume_no_hijiri

紫陽花も誓うでしょう

通り雨だったね カフェの出窓には天使が迎えにきたような光
たつぷりと保湿クリーム含ませた指の機嫌が良いということ
明日は雨明後日も雨で予報士が困ったように笑うのが好き
いつまでも炭酸水がしゅわしゅわと弾けるように隣にいてね
紫陽花がしずくを厳かに受けてバージンロードめくこの小道
曲がり道・小道・坂道の街を出て梅雨が明けたらあなたと暮らす

深影 コトハ @coroha_nikage

銀の毒

天気雨きらきら 電話ボックスの君の世界には僕はいない
あそこにもここにも傘は開いてるけど私の入れる場所はどこにも
雨音の増幅器amplifierとして傘は無数の声を聴くを強いたり
鍋の底水がとろりと銀の毒飲みきれないコーヒー夜が更ける
ゆっくりとセックスレスをうけいれる 白湯をのむ夜 閉じてゆく夜
滴垂る 切断された縦笛に通う命は確かにあつた

水沢 穂波 @3hothenheim

サマー・ブリーズ

僕たちはハーバリウムの中にいて飛び込み禁止のホイッスル遠く
糖質の真夏の粒子を吸い込んだきみのタオルを渡してくれた
なんとなく言いかけたことわかるのと言われてふさぐきみの口もと
塩分と亜鉛やフッ素、みかん水できみの吐息は構成されて
本当は来るはずの夏 上澄みのかじりたかったクラッシュアイス
長い夢ぐらいいの長さしかなくてきみとの夏はガムシロの色

雨虎 俊寛 @amefurashi3107

汽水域

ぬばたまのアイスコーヒー苦いって言えなくなって八年経った
飲み会の隅で飲んでは烏龍茶 混じり合わない価値観がある
休みの日くらいは人でいたくない溢したお茶もちゃんと拭かない
日曜のイオンモールで引つかかるウォーターサーバー売りのセールス
小雨でも傘をさしてる人たちは自分を安く売ることはない
冷たくておいしい水をくださいといはめかしては愛を乞う者

新棚 のい @HCCMONO

水の変容

ひといきにみづ飲み干せばわたくしの昏きところにひとすぢの川
ひやかな夜に匂へる香水はきみの急所を教へるやうに
死にたいといふよりむしろあとかたもなく消えてしまひたかつた 雨
つむじまでお湯にしづめて真夜中の湯舟に生まれなほしてゐたり
時は河 たうたうとゆくみなそこに感情といふ瀬をしづめて
さうめんをさらつとお湯に解き放ち夏をはじめてよろしいですか

有村 桔梗 @chattenoire_k

フォローを外す

紫陽花の小径を抜けてゆくときに飛び交う紫陽花たちのスラング
おもむろにアップルウオッチを外すとき腕にはつかないピアの匂い
五月雨に耳すませつつ何となくイーロン・マスクのフォローを外す
はつなつの夢のなかにてわたくしは水原紫苑の絵に描かれたり
さびしさよ 飛び込み台に一本の樹木のごとききは立ちたり
さみどりの風吹くなかに提げてゆくメロンは地球に引かれつつゆく

五十子 尚夏

水のことば

あめ。ぼくはここだよ。ここにいます。つてソーダはグラスに弾けつつける
それなりに拭ったはずのサドルから昨日の雨がじゅわりと滲む
五歳児が切ったみたいになぜ川の流れと町の境は
濁りとは命の別名かもしれず 庭のバケツに雨は濁って
君という島に向かえる舟はなく波打ち際で小石を拾う
ひび割れた大地が水を弾くように君の言葉を諾せずにいる

本条 恵 @singles_cafe

みずになる

極小のうみをまぶたに隠しつつ遠くの街のことを話した
ばかだなあ、かなしみは雨ではなくて心臓に咲く花。花だよ
真夜中に蛇口をひねるくちにするものが身体になるならきみを
六月の風はほとんど水だから抱きしめてみる許されたくて
水たまりを踏んで歩けば足元で向こうのぼくもぼくを踏むんだ
もし次もみずになるならすずらの葉をひからせる朝露がいい

牧角 うう @mkdoki

廻る水

新緑を揺らして青い風の走るウユニ塩湖は水田にあり
雨垂れのリズムは自在に変わりゆく追いつけない鼓動の寂しさよ
露帯びる草はらにそっと寝転んで沈んでゆく六月のオフイリア
虫の音がかぶるかぶ昇るよクラムボン黒く澄んだ沢の底から
アヴェ・マリス・ステラ歌って裸足のまま青いワンピースで海を呼ぶ
飲み干したアクエリアスが胸の中叫んでる廻る水のルフラン

植田 とうこ @tocotocotouko

水槽の断面

続けてたことを止めたくなった時水が滴る鍵穴がある
道ばたの濡れた小石が目印の海に一番近いジョンサン
細胞の内と外とに満たされる水を記憶と呼べば潮騒
悲しみは涙で薄められるのを前提として濃くつくられる
カメラには写らぬ側の手に持ったコップの水をゆっくりこぼす
人間の身体はほとんど水分でそのほとんどは濁っています

宇祖田 都子 @Shinsyutu2020

傘持ち係

友達に序列があること対面で示され無言で囁るレモンティー
トトロにはもう会えないと知った日のなみだはほんとの色をしていた
浴室に足りないものは明るさで午前三時の丸い膝小僧
夢なのか夢じゃないのか知っているわたし多分もうきれいに泣けない
降る雨の音を飲み込むサイレント機能は右ヘスライドをする
常夜灯 涙みたいな金平糖自分のためにおとしてすすむ

真崎 あや @ayayamk

Watercolor

花に水、誰のためでもなく朝を迎えたわたしにアイスコーヒー
快晴の空を映した水たまりへと踏み出せば空を歩ける
川底が見えるくらいの透明度だったな きみが微笑む顔は
はつなつの風を味方につけながら魚のように泳ぐ自転車
滲むから気づいてしまう またわたし水彩絵の具の恋をしていた
ゆっくりと水を溶かすスピードで信号が青に変わるのを待つ

丸瀬 まろ @maruse_maru

この街は夢だらけ

飛び立てる空を探して渡る橋まっすぐ生きていたい、ここから
ささやかでまろい光の粒になり走る湾岸線のパノラマ
なにもない場所としてある島の名に夢と冠してめざす未来は
川を越え街を繋いで新しいルートを紡げなにわ筋線
淀川は海ではなくて第二寝屋川は溝ではなくて たそがれ
愛を告ぐには広すぎるOSAKAで身を尽くしても会いたいひとよ

福山 桃歌 @momoka_fukuyama

濾過装置

垂れてきた雨で片目を閉じるほど冷静だから健全だから
使い捨てドライアイ用目薬のようにさしたい刺身包丁
もし僕が狩人ならば味噌汁に肉と茸をたっぶり入れる
まだ夜だ まぶしい白の朝霧のおぼろ豆腐に山葵を添えた
ご飯時シャチ水槽の水色と同じ色した水出し紅茶
バスタブで首を洗おうティーツリーボディオイルもたっぶり塗ろう

古井 久茂 @fuldom

かたつむり、あじさい

雨雲がきれいな色で僕たちの街に近づくテレビの中で
かたつむり ひどりでいることをやと飲み込めたからそこにいるのか
雨音が聞こえる前に眠りたい 隣の子がまたギター弾いてる
傷つけたことを忘れてその傷を雨の日に思い出すことがある
見なければ何もなければ見ずにいて水道をいっぱいひねって
六月に答えはなくて かたつむり、あじさい、ぜんぶ不思議な形

泳二 @Eishimada

雨の日とそうでない日

まだ雨の降らない街で紫陽花はその領域を広げてゆけり
梅雨に読むべき本を買う『罪と罰』『白鯨』『源氏物語』ほか
雨音に意識は爆ぜる太陽はぬばたまの黒雲の奥にあり
雨雲の中なる未確認飛行物体よすぐ連れて行ってくれ
懐メロを口ずさむことため池は叩かれている雨のリズムに
ムエンゴの投手の汗を拭うように週明け雨の予報よ失せろ

大橋 春人 @hachidx2

ひかりごと

右手から花束が溢れる人の後ろ姿を見送って、雨
深呼吸 プールの底で吐き出した祈りがみつかりませんように
でも君は泣いてもいいと痛んでくれる古傷がある
たぶんもう会わないだろう跳ね返すひかりごと水たまりを越えて
炭酸が街をめぐる夏になる 拭った涙、あなたにあげる
ブレーキも無く下る坂 青春を呼ぶように三ツ矢サイダーを買う

古川 柊 @fukawasyuu

薔薇と獣

夏の土みずを注げば匂いたつこの世の薔薇のみなゆくところ
ないことになるはずはなく薄明ににこった水の匂いがのぼる
くりかえし死ぬ狼の疾走を硝子をへだて雨などと呼ぶ
女の子の流す血みたい。ペランダに最初に咲いた薔薇切り落とす
漂白は生者の仕事 解釈は生者の仕事 生者は匂う
水中に揺れる手指のかげ淡くこれは渡りの獣のかたち

穂崎 円 @golden_wheat

swimming days

わたしにも尾びれが生えていた頃の記憶としての塩素のにおい
今はもう消毒槽はないと聞くクナイブのパスソルトを探す
平泳ぎが一番得意人波は感情に溢れて泳げない
鼻の奥がつんと痛くて泣いている泣いていないよ水が入った
息継ぎのために写真を撮っている 空、花、ひかり、きみの横顔
クイックでターンを決める一瞬の音のない音きみに聞こえる？

岡田 奈紀佐 @spicet6g

池のある公園のお昼ごはん

木漏れ日の池のほとりに腰掛けて黄緑色の息を吸ってる
春の陽をからだにいっぱいあたるため弁当持って落合公園
届いたら豚味噌おにぎらずになりましたみんな美味しいお昼ごはん
日曜日からあげ買ってお昼ご飯内々神社の日陰を探し
春日井市都市緑化植物園に動物少しいるの楽しい
勅使ヶ池公園の木陰お昼ご飯池を回ってお家に帰ろう。

@kaizen_nagoya @naokikutagawa

オニオンスープ

久々に乗るのぞみ号富士山を雨雲が包むのを横目に
湾岸をモノレールから凝視して楽園という地を夢想する
蒸し暑い池袋東口^{ひがしぐち}早足で行く紫の柄シャツを失う
予約したネカフェに泊まる二十種のドリンクバーを試しきれない
十年も前に終わった活劇の結末を知る午前四時半
冷めてきたオニオンスープ嚙下して帰りのタイムテーブルを汲む

廻れ井戸 @kareido111

日帰り旅行

人目には付かないはずの場所だった青い池なら青さ忘れて
もう二度と足を止めない気がしても三段滝は変わらず落ちる
名水と持て囃される湧き水もかつては空の使者だっただろう
日帰りの旅行で行った公園で池の底へとうずめた記憶
水面を揺らした風の速いこと、何故だかここに帰りたくなる
この川もきつと逸話があるだろう知らないままに渡り終わって

河岸景都 @kate_kawagishi

みずばずる

みずばずる混じり合わない水ばかり分けて重ねて重ねて分けて
青い水はれの日の海ぎんいろは曇天の海分けて重ねて
むらさきの水はむらさきどの水もあるべきほうへ分けられてゆく
みずばずる混じり合わない水ならばどれかは水じやないらしいです
水のふりしているひかるブロックがたぶんたふんと夜を濡らした
分けきれず失敗をした描きかけの水の景色がばれつとにある

ネコノカナエ @nekonokanae_uta

雷は花に濡れる

早朝に飲む夜の水 キヤスターは雨の記憶から失っていく
悪口は濡れて花びらは透けて死の手前にいるんだらう夏だから
水面を削ってあなたに海をかけ手のひらはいつときの不凍港
憧憬にモザイク 雨はこの街の全てをブルーサイドに変えて
潮風が染みた目で取り返し付かんとこまで行こう、車で、青い
長雨の意思を離れた雷があなたを選ぶ ネイティブ・ダンス

林見 年 @poyashimi

後朝

ゆくゆくは海へと至る雨を受け代わりに泣いている窓ガラス
梅雨入りの報をかき消す水道の音は季節をきつと知らない
切り花の水のすべてを入れ替えて部屋にちいさなあかりを灯す
真水とは塩分のない水のこと 涙は感情の味がしている
だから朝が来るのでしょね大河から分流がうまれてくるように
パステルのパッケージからゆるやかに今日のわたしをつくるエビアン

君村類 @kmmr_109

尻尾をなくして

えび天の赤いしつぽをどんぶりの底にのこしてふるさを出でつ
環七の車の響きはわが部屋に夜ごと海辺の夢を運びぬ
ふるさとは田植の頃かエクセルの罫目を埋める雨の土曜日
米を研ぎ浸した水に手を入れる川遊びせし遠き日のごと
みずいろの蓋を開けばガラケーに貝殻のごと声はのこれり
靴ずれの踵かばうはマーメイド海なき方へ歩み去りけり

久助 @nTbBm64shIt1ap

遡上

かき氷(いちご)は溶けて手のなかの偽物ばかりあざやかでした
区切れない海のどこかでこの国に生まれたときから降っている雨
鋭さを失くした小石 川沿いに浄化しすぎた記憶が積もる
遡上する 踝にあるたましいをつめたい川に浸しつづけて
花曇り 嘘にならない沈黙を使いこなして佇む岸辺
決まりから遠く離れたみずうみに花は咲かない、冬鳥を飼う

早月くう @k_hayatsuki

水玉模様

気まぐれな雨に長居を許されてゆつくり空になるティーポット
落下していく花びらのその音を聴く静けさを私にください
雨の粒一つ一つに紫の絵の具を溶かして満ちる藤棚
辛口のジンジャールをグラスへと注ぐここにも初夏の木漏れ日
にわか雨受けて歩けばとりどりの水玉模様になるワンピース
雨上がり虹が立つとき眠りから覚めた天使の羽音がまざる

飛和 @hiwa_towa

毒を飼う

契約に潜む危険のようなもの朱肉の毒は焼いても消えない
繊細なガラスの中で毒を飼う昨日も今日も平熱だった
体温計舌下に挿して神様とコウノトリの機嫌を伺う
水銀は決して鳴かない妊娠の兆しを告げたあの日でさえも
この子にも辰砂のような色の血が流れているのだ思い切り泣け
アマルガム私も息子も乱暴な言葉遣いになるときがある

榎原もか @kharaneko

氷入り炭酸水

会いたいと中途半端に願うからゲリラ豪雨に嗤われている
交じり合うあなたとならばそれでいい熱が集まる指先たちよ
弾かれてまた弾かれて壊れゆく戻らなくなる波紋のように
嬉しさも寂しさも独りなら広がることの無い水滴は
不器用な生き方だから氷入り炭酸水をただ煽るだけ
あなたからだんだん消えるさようなら水たまりみたいに忘れられ

成瀬悠 @naruse000yuu

岸辺の歌

流せない涙で泣いた水のように流れる風に身体あずけて
折りにふれさびしくなるために歩く 川はしずかに入り陽へむかう
夏果てて湖重く傾いて睡い 遠雷で充電せよ
雨上がりをもう待たない ゆっくりと蛹の中で虹を融かして
透明なレースを纏い泳ぎつく岸辺の歌を身体に満たす
君ともし寄りそうことがあるとしてそれは海王星の渚で

桐野黎 @Tower1710

汀にひとり

透きとおることばの雫つたいくるきみのメールはたてがきのよう
霧雨の夜に本音は零れおちテールランプに滲むやさしさ
あいつちはあいまいになり花時のおわりの気配まとう春霖
思うより泥濘ふかく鮮やかなハーバリウムは息をひそめる
雨粒の一滴ほどにはらわれてきみとの日々は霧散してゆく
もうきみにさざ波さえも立たぬこと汀にひとり立てば夕嵐

玖嶋さくう @sacula_tanka

スイミング

飛び込んで蹴って掻いては水しぶきかけ声響く夏がはじまる
水をすくうこの手で行く指鉄炮あのフラッグへ心も飛ばす
2級では蛙になるよ、突っ伏したプールサイドでエア平泳ぎ
朝9時の第7コースは青い海もぐれば光りの梯子が射して
クロールの勢い過ぎた息継ぎでローリングしてみえた青空
ほらごらん、夕陽がきれいと言いたい斜陽のそそぐプールのなかで

奈瑠太 @nada_aa

君にもジュースを買ってあげる

初恋も泡だったと飲みほしてペットボトルの底は花びら
「間接キスしよっか、コインランドリーで。防犯カメラも見てくれるし」
そういえば、四次会できみが歌ってたみくしゅじゅーちゅ、すぐよかった
筆名を綾鷹にして投稿すれば選ばれたのは綾鷹でした
ストローをイヤホンジャックに差し込んで今日はグルーブ魂を呑む
サンガリアやチェリオのような立ち位置でこの世の中を生きてゆけたら

西淳子 @jacky244Ray

恋は水色

5年前にカタカタ揺れるランドセルの水色恋は眼の前の人
行きつけのおもちゃ屋さんの店員と5年先には恋に落ち水色
水色の恋は知らないあの子には優しい君に川が流れる
水道の蛇口にたれた雫たちの一つで君に思い愛情
水色の記憶が海に流れたら山の心は癒やされますか
水色の天然水を玄関に並べて猫をおいだす夕べ

黒須紗里菜 @tk0326

in the bathroom

おぼんに酒浮かべる日は来ず浴室にアイス持ちこむおとなとなりぬ
入浴剤ドボンと入れればバスタブにあぢさゐの花次々と咲く
疲れとは揮発性なりライラックのかほりとともに霞んでゆきぬ
固かったアイスもだんだんやはらかく嫌味も水に流してやらう
水彩画描いたやうに涙滲む日もあれそれは今日ではなくて
チョコミントアイスの匙を櫂にしてわたしはわたしの針路をとりぬ

小泉キオ @kiokoizumitanka

みずはやがて

みこころのままにと声がした世界すべてのみずは海に向かって
ずっと昔。荒れ地に沼があった日のみずだけが知る人のみた夢
はやぶさが忘れた贅をみずが撫ぜ二度と起きない贅の血をのむ
やくそくを暴く驟雨に耳を貸し、世界のゆめに手のひらを貸し
かくに入れかざった霜はかつて「書」の神話の上で成った水像
てのひらを浸した水が凍り目を閉じれば湖は海になりゆく

紅坂紫 @YukariKousaka

海へ駆ける

永遠かのように続く夜ならば海辺で共に踊りませんか？
制服を着たまま駆けた深夜二時大人になんてなりたくないや
過去たちをやさしただけに変えたくて思い出せんぶ海に放つね
海になる 僕は飛んでく さあ、駆けよ やつと自由だ やつと自由さ
気分屋でお転婆なあの子みたいに海をピンクに塗ってみたくて
海を駆ける甘酸っぱさと焦れったさ抱えたままの曖昧な僕ら

古都 梨衣子 @__yu-ca-ll__

渴ききるまで

遠ざかりつつある月の薄暗さなにも持たずにはじき出されて
影のさすくぼみを海と呼ぶことの豊かな星に住まう無邪気さ
生き物に傷をつければ滲みだす湿り気 いつか降ってきたもの
つまりは死んでいるのか、いわないか、乾いて風も吹かない星は
その時に「渴く」と言った 咲き終えた紫陽花はみな小さくなった
預かった水を余さずかえすまで死に顔の尾根はわずかに艶やか

堂那灼風 @shakufur

ウォーターサーバー

クラウドが保存している水脈の画像をzipファイルで落とす
ローカルに水脈.jpegのおよそ三百十の連番
jpegの^{パタ}の前の水脈の名前を「確認済み」へと変える
水脈の東と西の特徴がブルーライトで見えにくくなる
ひとつだけ水脈という名を残す最もうつくしい水脈に
大脳皮質にウォーターサーバー 忘れようと何度も沈めた川がクラウド

長井めも @longmemo_tanka

水に関する六つのエチュード

じめじめと倦む恋を映しソオダ水のグラスの底にたまる水滴
降る雨に姿を変えてきみの窓に会えぬ涙を注ぎかけたし
湖のはるかな底の黄泉の国で父が私に手紙を書きをり
いだき合って豪雨に濡れる濡れる冷える生きている間だけ血は温かい
天井まで満たされた水に漂ってあなたに巻きつく白蛇になる
澄んだ水にとっぷり沈むわが町を見下ろしどこまでも泳ぐよ

今 哀子 @3150AIKO

日々

日の高いうちの入浴はまだかの腹にあかるい石けんを置く
シャンプーは底に残ってしまいうもかなしい 役立てるのに
平等で正しい水を吐くことに疲れたのだろう 蛇口が曇る
死んだあとママに会えなくなるのかと泣いた記憶がふるえ始めて
三度目の湯を注がれてティーバッグからため息のようなあかいろ
好きじゃない服を着て寝る なぜ今夜死ぬことはないと思えるのだろう

西藤智 @hionosulab

あかく咲く

ブラウスにランチの Pastaソースの点 アジサイはまだ色を知らない
くたびれた電車が揺れてイヤホンの隙間に雨が染み込んでくる
順番に傘が開いて去っていきわたしは最後の最終の花
間違いのようなピンクのパンプスでぬかるむ今日と明日の境目
多摩川はいまごろ鳴いているだろう獣のように濁った波で
切々とうねる潮が剥がれ落ちうつくしくても戻れない白

中村育 @nkmrk

雨期には微も

警戒水位のとびらの向こう六畳にクジラを抱いた姉が居ります
剥き出しの水道管に二の腕を委ねれば音、骨が痺れる
天頂の頭蓋剥がさんひさかたの雨期には微も蔓延るものを
簡単なお仕事ですのうでした樹一本から季節が巡る
1／6フィギュア「ノーナ」の沈みゆきウニ塩湖を波紋が満たす
能面へ手をかざすとき稲妻の静かに満ちてそののち薄暮

中村成志 @nakam8

いつか浮かべば

睡眠の記録アプリに課金して深夜の海に自我を沈める
脳内が泥にあふれる海行きの始発列車の検索をする
曇り空がらんと白い海に立つあの世の景と照らし合わせる
悲しくもないのに涙止まらない防災無線放送の声
つちふまず湯船のなかで押しつぶす今日の苦味がごきゅりと鳴って
ドイツでは風呂は三日に一度きり生きてもいいのインターネット

滝藤青瀬 @genso_aose

水軍の季節

水軍がかつて巡ったこの国を今年も巡る夏という時
相模へと里見水軍進みゆく船の男の轟ける歌
九鬼の船つぎつぎ沖へ覇者織田を焼き尽くす火をその内に秘め
内海の王者の誇りいま船に丸に上の字掲げられたり
名門の熱き誇りは半島を守護する事ぞ三浦水軍
波の底にもあるという都へと還りし海の兵たちよ

田中翠香 @suitakinenbi

今日も雨だね

雨降りに傘は二人を閉じ込めて線香花火の鳴り止まぬ夜
紫陽花の蕾の硬き早緑よ 五月の雨にほどかれてゆく
雨粒の落ちたところから琥珀糖めく紫陽花の光こぼれて
京急線逗子・葉山行きどこへでも行けそうなのに行けなくて 雨
紫陽花の開きゆく音 駅舎から雨傘ばさりばさりと咲いた
アスファルトの黒く濃くなるところから梅雨のにおいの立ち上がる街

酒庭かや @inojinoinoji

水の記憶

空の水が滝のやうに落ちてくる着衣泳のスニーカー重し
生かされるすべての毛細血管に行きわたる水が血にあること
梅雨がくる水生哺乳類として生きた原始の記憶が泳ぐ
海へ出て陸へは帰つてこなかったイルカの群れに見送られてゐた
朝露を飲むセリチョウ薄明のひかりのなかに人は立ちたる
水溜りのおもてを小さき創世の神の息吹がアメンボウとゆく

咲兵衛 @izumitakeishi

雨の眼

わたくしの裸眼ふたつを乾かしてゆく肉筆画 梅雨はもうすぐ
浴室を湯気のひとつぶひとつぶが漂うまるで椋鳥の群れ
輪唱に加わる夜更け わたしには半透明なともだちがいる
たくさんの水を見た日の眼裏を苔は重たく覆いつくして
いつか雨を降らせる雲が眼球にひしめきあって君をみていた
庭へ来て。入道雲が声帯をふるわすさまをふたりで見よう

田村穂隆 @Da-Ho-Ra

六月の遠雷

新しいことがなんにも起こらないわたしの宇宙に水遣りをする
文字だけのあなたは風のない湖面せめて雨でも降ればいいのに
気づかないうちに濡れてるスカートの裾 不用意に零すつよがり
困らせてしまえばいいか小さくていいから波を立ててみせてよ
雨よ降れ 夜更けほろほろ交わし合う乾いた文字を押し流すほど
雷鳴が遠く聞こえるもういちど六月に溺れていくくなる

千原こはる @kohagi_tw

マザーウォーター

水割りの氷が溶けて薄まっていく身の内の女性というもの
甘やかなピアノピースのように降る雨には雨の企てがある
はからずも小言のような雨だれがあじさいの葉を打つ 受け入れる
友達の子どもの腕に触れたならすぐ手を離す花手水のごと
あきらめたものから順に果ててゆく 白く碎ける波は止まない
耳奥にそそぐ言葉は歳月の砂に濾されて水脈となる

佐藤水魚 @satohio_tanka

遊水池

五月雨をただやり過ごすバス停で愛を叫んでいたあまがえる
教室という海にいて浮上するため脳内に吐くデスボイス
あの鳥の翼を折った先生はまだ先生をしているらしい
でもあの日、盗まれた自転車みたたく戻らないはつ夏がきみです
六月はながい、あくびをひとつしてそろそろ髪を切れと猫が云う
モノクロの写真は母になるまえの母と背後に風ぐ遊水池

西鎮 @xi_zhen_jvut

Vending Machine Fan Club

自販機からのボトルは立っている光るボタンが押された後も
二進法に取り憑かれたか昨日から歩くリズムがどうもおかしい
わたしからあなたを引けばはらはらとしてのひらにふるかすかな雪花
あんばんの裏見つめればそこはかと親王の行く海路浮かべり
百三十円持っていたかな自販機のさわやかチェリーと書いてある缶
待とう蚊にくわれた痕がわたくしという現象が消えてゆくのを

雀来豆 @jacksbeans2

クオーツの水源

ひとつずつ祈りのちがうクオーツの数珠をほどこいてあなたにあげる
黄水晶シトルリンをくちにふくめばつかのまの風の湖面となる始発駅
紫水晶アメジストいつかどこかで咲いていた花の記憶を閉じ込めてある
黒水晶モリオンに守られている水源地わたしのために泣くひとのいた
赤線水晶レッドシルクルクオーツきつと抗ったぶんだけ増える水脈だろう
茶水晶スモーククオーツ棄てた瞬間に地に還るからあとずっと夜

姿煮 @sugartani

梅雨の Rond

初燕低く飛ぶなら雨となる庭の手入れは午前でおしまい
晴れの日はどこかにいきたい雨ならばあなたに逢おう 明日はくもり
「病葉わかれは」と言葉を一つ覚えたる街に今なお「川は流れる」
雨傘と日傘に使う水玉のこの一本が六月のすべて
はつなつの植物図鑑に茄子みのり漬物のことを考えている
梅雨時にひそひそと降る雨たちよ内緒話は私もしたい

多香子

うつくしい窓

終電は水槽みたい乗客の夢が魚になってただよ
やわらかいからだを裂いて滴った水を汲みとるためのくだもの
ざあざあと手から溢れてゆく水と光をシャワールームに満たす
水盤に赤いガーベラを浮かべてここは断頭台だとおもう
ぼくだっていけるならいくコーヒーの水面に映るうつくしい窓
水槽に沈んだ青い熱帯魚きみのなまえを分かったかった

高田月光 @v8QdMu8WOf9vbi

水に流れて

一滴の涙もなしに葬式の知らせは午前六時に届く
遺言は川に沈んだ愚痴ひとつ言わずにゆるす人だったから
自惚れた悔悟だろうか酒を飲む約束をしていればだなんて
読む人のいない手紙は止めどきのないまま紙にインクが滲む
最後にと握った肌の感触も消毒液に上書きされた
朝焼けに泣き出す前の曇天の背なを天使の梯子が照らす

せいや @petitchante

愁雨期

折り畳み傘を一本胸のうちにしのばせているような恋愛
降水量百ミリの夜 空だけが僕へ激しい愛を降らせる
劇的に笑え恋人 ふたりとはひとりひとりとだから、雨音
それなりに風はあるけど人生はいつも水曜しかも雨ふり
途中下車できない夜行バスに雨 このまま生きるしかないんだよ
グッピーは虹を持つけど僕たちの希望みたいに小さいってこと

たえなかず @suzusuz2009

桜桃

さみだれの降りやみし後みちのくの光る桜桃の紅みづみづし
水曜を好みしゆゑん通ひたるピアノ教室後もらひし褒美
オレンジの粉の薬を溶かしやれば幼子は水を飲み切りにけり
長女とは違ひて水を好むらし次女は沐浴しあればしづか
水筒は濃きあを色のステンレス授業の合間に喉を潤す
水色のシャツばかりある衣装掛け今日よりネクタイとジャケット要らず

高橋良 @takahashi_ry5

もう戻れない

いっぽんの傘にふたりで入ったら身体はぜんぶ心になった
雨音ときみの声しか聞こえないはじめからそうだったみたいに
はりついたブラウス こんなに濡れていてこんなに喉が渴いてしまう
「危ないよ」ためらいがちに伸びる手をためらいがちに待っている肩
反射したテールランプが敏感な網膜を焼く暗すぎる街
考えているふりをして水たまり、否これは沼、もう戻れない

瀧口美和 @abcdefghijklmiw